

学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	藤野 洋子

開催日時	令和3年2月26日(金)
開催場所	本館1階 図書室
出席者(委員)	小田 浩伸(会長) 宮本 正路(委員)
出席者(学校)	藤野 洋子(校長) 前田 真紀子(事務長) 篠川 一樹(教頭) 太田 直哉(教頭) 藤原 克行(首席) 西井 大介(首席) 辻 美穂(小学部主事) 増田 健作(中学部主事) 菊池 亮輔(高等部主事) 中島 優(病弱部主事)
傍聴者	無
協議資料	下記 議題関係資料
備考	

議題等(次第順)

- (1) 校長挨拶
- (2) 「第2回授業アンケート」について
- (3) 「学校教育自己診断」分析状況について
- (4) 令和2年度「学校経営計画」の達成状況について
- (5) 令和3年度「学校経営計画案」について
- (6) 意見交換
- (7) 教頭挨拶

協議内容・承認事項等(校長より内容説明)

- (1) 校長挨拶
 - ・本校学校運営協議会委員の旭区社会福祉協議会会長の宮本様が大阪市民表彰を受賞されたことの紹介
- (2) 「第2回授業アンケート」について
 - ・自由記述で、授業が再開して安心したと思う一方で、一層のコロナ感染症対策を望む声もあった。
- (3) 「学校教育自己診断」分析状況について
 - ・教員の回収率は100%であった。
 - ・全体的には昨年度より高評価で「わからない」という回答が減少した。教員一人ひとりが高い意識をもって取り組んだことの表れと考えられる。
 - ・保護者においては、「よくあてはまる」「あてはまる」が全体的に減少し「わからない」が増えている。行事が中止となり、学校での子どもたちの様子を見る機会が減少したことが原因と考えられる。
 - ・改善策を学校経営会議、各学部・分掌で考えている。人権に関わる項目についてはさらに改善に向けて取り組んでいく。
- (4) 令和2年度「学校経営計画」の達成状況について
 - ・感染症対策として、「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」の改訂を重ね、それに基づいて取り組んできた。
 - ・スクールサポートスタッフによる校内の消毒作業、学習支援員の配置、足ふみペダル式ゴミ箱への交換等を実施。
 - ・「大災害時の対応マニュアル(登下校版)」が完成。通学バス運行中に災害が発生した場合の一時避難場所を設定し、次年度から本格実施。
 - ・防災備蓄用品として、空気から発電する発電機を追加購入した。
 - ・自立活動におけるスパイダーの取り組みを、活動動画と合わせて首席より紹介。
 - ・コロナ禍における授業の工夫や取り組み、居住地校交流の実践について、小中高病の各部主事より報告。
- (5) 令和3年度「学校経営計画案」について
 - ・3年計画で人権研修を実施。感染症対策の継続実施。「学校における危機管理の手引き」の再整理・再編成。

〈委員からのご意見と学校からの回答〉

- ・授業アンケートに関して、教員の回収率100%は素晴らしい。思った以上に高評価と言える。今後も教員が一体となって取り組んでいくことが大切。人権尊重については、あらためて見直さなければならない。
- ・情報共有、組織化が、次年度にむけてどう活かされるかと考える。
- ・昨年、コロナが始まり今もまだ終息の目途が立っていない中で、支援学校がワクチン接種を先行して受けられるというような情報はないのか。
 - 現在のところお聞きしていない。高齢者施設が優先と聞いている。
- ・これから卒業式・入学式があることから、支援学校が先行して接種できたらと思う。
- ・防災においては、昔は地震だけだったが、最近は水害の心配もしなければならない。
- ・新森地区は、光陽支援学校から京阪「森小路駅」までが浸水する可能性がある。
- ・地域防災マニュアルが令和3年の3月にできあがるので、光陽支援学校にもお渡しするので活用いただきたい。
- ・学校運営協議会全体の総評として、各項目において、映像等を交えて視覚的に説明いただき様子がよく分かった。
- ・SDGsは「誰も取り残されない社会」をつくること。意図・主旨を共有して進めてほしい。
- ・スパイダーは、楽しさや可能性を引き出す取り組みで、発展させることは素晴らしい。
- ・自立活動6区分27項目のどこを主に取り組むのか、一人ひとりのアセスメントをしっかりと行って進めてほしい。
- ・緊張の強い子は、余計に力が入ることもある。後のフォローも大切。
- ・次年度のことを示してもらったので、この内容で進めてほしい。

日時	令和3年 月 予定
会場	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室